県社会福祉士会

委託事業増へ法人化

記念式典「福祉向上取り組む」

県社会福祉士会（松井利博会長）は県や市町村の委託事業を受けやすくするため、一般社団法人化した。法人化によって社会福祉士の活動の機会が増えており、松井会長は「責任を持って社会福祉の向上に取り組んでいきたい」と話している。

同福祉士会は一九九四年に、任意団体「日本社会福祉士会県支部」として発足。全国各支部の法人化の流れを受けて、今月三日に法人格を取得した。

会員は県内の社会福祉士の33・6％にあたる二百五十六人。精神上、環境上の理由で、日常生活に支障がある人を対象に福祉に関する相談や援助を行っている。

法人化すると、委託事業の契約主体となれることから、事業を受けやすくなる。また、成年被後見人に対して法人後見ができるようになり、組織的なバックアップを通して会員の仕事の負担を軽減することができる。

今後は、会員の能力向上のための研修会にも力を入れる。不登校やいじめに悩む子どもの家庭や学校と協力して問題解決に取り組むスクールソーシャルワーカーの配置や、低所得者への福祉関係の情報提供を強化したい考えだ。

二十一日には宮崎市の南九州大で法人化を記念した式典があり、会員ら約八十人が参加。松井会長は「今日を境に各団体と協力しながら力を出し合い、誰もが安心して暮らせるように福祉の向上に努めたい」とあいさつした。

会員ら約80人が参加した県社会福祉士会の一般社団法人化記念式典